

# 鹿追のNPO「かしわのもり」

# 住民集う福祉施設整備

## 日本財団が2.9億円助成



【鹿追・東京】NPO法人「かしわのもり」（鹿追、松山雅一代表理事）が、地域に開かれた複合的な福祉施設を鹿追町内に整備する。認知症特化型通所介護デイサービスや医療的ケアが必要な子どもに対応するほか、地域住民が気軽に集えるようカフェやライブラリーなどを用意する。整備費用は約2億9000万円で、日本財団（東京）の助成事業を活用する。

整備するのは、鹿追市街地にある約1万700平方メートルの敷地。元農家の住宅を

笹川会長（右端）から表彰状を受け取った（左から）山本さんと松山さん

リノベーションする拠点施設「レンガの家」には福祉施設機能のほか、地域活動の記録や道具を保存するアーカイブ、ワークスペースなどを設置。敷地に残る防風林や解体された牛舎の基礎を生かし、アトリエやホースガーデンなどを整備する。土地の記憶を継承した、「まち化する福祉施設」を目指す。今夏に着工し、2022年度内に完成予定。整備費用は全額、同財団の「みらいの福祉施設建築プロジェクト2021」の助成を受ける。福祉施設が地域社会に開かれ、まちづくりの核となるには建築デザインが重要との考えから、創設したプロジェクトで、3億円を上限に建築関連費用を助成する。全国から472事業の応募があり、6事業が選ばれた。

18日に都内で表彰式が開かれた。かしわのもりからは、訪問看護ステーション「かしわのもり」の松山な

【土幌】前町長の死去に伴う土幌町長選（15日告示）で無投票で初当選を果たした前副町長の高木康弘氏



正書付与式  
河江選管委員長（左）から当選証書を受け取る高木氏

つむ統括所長（55）と、設計を担当したトコト一級建築士事務所（空知管内沼田町）の山本郁江さん（37）が出席し、同財団の笹川陽平会長から表彰状を受け取った。松山統括所長は「地域の人がわくわくし、入りたい場所になりたい」と話した。（池谷智仁）